
「ヒト・メタニューモウイルス感染症診断に対する新しい 網羅的遺伝子検査法の有用性に関する後方視的検証」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの検体残余（検査後の余り）および診療記録を用いた以下の研究を実施いたします。本研究は、大学病院 IRB の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、検査を実施した検体（鼻咽頭拭い液）の残余（あまり）やカルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2023年5月1日から2024年6月30日の期間に埼玉医科大学病院を受診し、臨床的に新型コロナウイルス感染症が疑われ、鼻咽頭拭い液を用いた網羅的遺伝子検査が行われた患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

hMPV は、2001年にオランダで初めて分類された新しいウイルスです。これまで、乳幼児の肺炎の原因として知られていましたが、最近では、高齢者や免疫機能が低下した成人での重症肺炎例が報告されるほか、高齢者施設におけるアウトブレイクが報告されています。

本研究では、新しく使用できるようになった網羅的遺伝子検査技術の有用性を検証するとともに、その結果を公表することを目的としております。

3. 研究期間

病院長の許可後～2026年3月31日

4. 利用または提供の開始予定日

2024年9月17日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

本研究では、患者さんの検体残余（鼻咽頭拭い液）、診療録および検査結果（画像検査を含む）を調査し、年齢、性別および最終診断名、そして網羅的遺伝子検査の結果について調査します。

この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学病院中央検査部において、研究責任者である前田卓哉が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

対象は2023年5月1日から2024年6月30日の期間に当院を受診し、当院にて新型コロナウイルス

ルス感染症が疑われ、網羅的遺伝子検査が実施された患者さんを対象とし、検査データおよび診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

埼玉医科大学病院 中央検査部 前田 卓哉（研究責任者）

同 折原 悠太

同 川村 利江子

同 松岡 優

同 今井 一男

埼玉医科大学保健医療学部 臨床検査学科 学生 石田 瑠華

同 松浦 帆花

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学病院 病院長 篠塚 望

お問い合わせについて

ご自身の検体残余やカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学病院 中央検査部 前田卓哉

住所：埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 3 8

電話：049-276-1175（土日祝日を除く 8：30～17：30）

メールアドレス：t_maedaATsaitama-med.ac.jp（“AT”を@に置き換えてください）

○研究課題名：「ヒト・メタニューモウイルス感染症診断に対する新しい網羅的遺伝子検査法の有用性に関する後方視的検証」

○研究責任者：埼玉医科大学病院 中央検査部 前田 卓哉